

# 小学校第1学年 国語科 学習指導案

期 日 平成29年2月17日(金) 第2校時  
場 所 山鹿市立山鹿小学校 1年1組教室  
指導者 教諭 八浪 秀美

## 1 単元名

すきな ところを さがして よもう 「だって だつての おばあさん」 (光村図書)

## 2 単元について

### (1) 単元観

本単元は、「読むこと」の単元である。小学校国語科学習指導要領「読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」を受け、楽しんで読書するために物語の好きなところを探し、好きな理由について想像を広げて読むことをねらいとしている。また、指導事項ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に読むこと。」を受け、登場人物の行動の変化を把握し、そのことから様子を豊かに想像したり、指導事項エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」を受け、自分の「好き」という思いに強く影響した言葉を書き抜いたりすることをねらいとしている。これらのねらいを言語活動例オ「読んだ本について、好きなところを紹介する言語活動」を通して指導することとなる。この「好きなところを紹介する」言語活動を行うことは、自分の作品に対する思いを深めることにつながる。さらに、紹介することを通して、読書生活を豊かにし、紹介する相手と本を読む楽しさを共有し、読書の輪を広げていくこともできる。活動を充実させるためには、「おもしろい」などの紹介のための言葉を活用しやすくした語彙表を基に感想を持たせたり、実際の紹介文などの例などをモデルとして書き方を身に付けさせたりすることも必要となる。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ア)とも関連させて指導することができる単元である。

本単元において言語活動を充実させることは、一人一人が好きなところを紹介し、互いに思いを共有することにつながる。このことは、これからの社会に求められる資質・能力として設定した「共感する力」の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「気づく子どもの育成」及び目指す児童像の「いい声・いい顔・いい心」の実現につながるものであると捉える。

### (2) 系統観

第1学年(12月)	第1年(1月)	第1年(2月) 本時	第2学年(4月)
「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 (「読む」ウ, オ, カ) (「書く」ウ, オ)	「たぬきの糸車」 (「読む」ア, ウ)	「だってだつての おばあさん」 (「読む」ウ, エ)	「ふきのとう」 (「読む」ア) (「書く」ウ)

### (3) 児童観

- 全体の場で自分の考えを表現したり、誰かに伝えようとしたりする児童は少ない。しかし、ペアやグループでの対話を取り入れ発言の機会を設けることで、自分の考えを持ち表現できるようになってきた。また、対話の際に相手の考えや思いを聞き取ろうとしていくことで、「これからの社会に求められる資質・能力」として設定した「共感する力」も身に付きつつある。
- 国語の学習に関する意識調査において、自分で考えたり、話し合ったりする活動が「とっても好き」「好き」と回答した児童が3分の2以上いた。このことにより学級全体として意欲的に取り組んでいることが分かる。ただ、個別に見ると各活動に消極的な児童もいる。具体的に何をどうするのかを示すなど個別の働きかけを行うことが必要である。
- 読書生活については、国語の授業に合わせて昔物語や民話、図鑑を読むなど、興味関心を高め、読書の幅が広がりつつある。本を読んだ後に、家族や友達に感想などをよく話す児童が半数以上おり、意欲も高い。
- 単元「ずうっと、ずっと、大すきだよ」では、読後の感想を「好きなところ」「おもしろかったところ」「悲しかったところ」「不思議に思ったところ」「いいなと思ったところ」の文を抜き出した

り、まとめたりしてノートやカードに書いて紹介し、ペアや全体で交流した。中には、わけも付け加えて紹介できる児童もいた。

(4) 指導観

- 感想を表す言葉を一覧で示し、物語の好きなどころを、自分の感想を理由として入れて紹介できるようにする。
- 言葉や文として読む力にも個別に見ると差がある。そこで、挿し絵の有効活用を図り、話のあらすじや主人公の言動の変化などを楽しく把握できるようにする。

<p><b>学びを引き出す</b> 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)</p>	<p>①言語活動のモデルを示すことで、児童が見通しを持って取り組めるようにする。 ②毎時間、例示した中から選ぶなど課題を焦点化することで協議の話題を絞り、協働して解決に向かう学習になるようにする。</p>
<p><b>学びを振り返る</b> 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p>	<p>③児童の最初の考えと他者との協議後の考えを比較できるようなワークシート等を用い、考えの変容が見取れるようにする。 ④振り返りの場面において、学習内容だけでなく、学習活動の様子について他者評価を行い、「共感する力」について意識できるようにする。</p>
<p><b>学びを支える</b> 学びのUD化とICT の活用及び支持的風土</p>	<p>⑤児童が学習内容だけでなく、学習活動の方法まで把握できるよう、相談しやすい雰囲気づくりに努めたり、ICT活用により共有化を図ったりすることで、日常的にも学級内での「共感する力」の育成に努める。</p>

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	場面の様子について想像を広げて読むことができるとともに、楽しんで読書しようとすることができる。	
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
①場面の様子や登場人物などの好きなどころを見つけながら、お話を進んで読もうとしている。	①登場人物の行動を中心に、好きなどころを見つけながら読んでいる。(ウ) ②好きな場面や登場人物の好きなどころを書き抜いている。(エ)	①理由を表す言葉を理解して使っている。(イ(ア))

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時6／8）

単元を貫く問い：すきなところをさがして、ともだちにしようかいしよう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1 2	1 今までの読書生活を振り返り、物語の好きなところを紹介し合う。 2 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 一読後、教材の内容を大まかに確かめ、感想を話し合う。	【関心・意欲・態度】①：ノート 【学びを引き出す】 ①紹介する言語活動についてモデルを示し、見通しを持って学習に取り組めるようにする。 目的・相手意識を明確にする 【読む能力】①：ノート、ワークシート
二	3 4 5 6 (本時)	4 教材文の場面の様子について登場人物の行動を確かめながら、好きなところを見付け、紹介カードにまとめる。  4の場面の好きなところを見付け、紹介カードにまとめる。	【読む能力】①②：ノート、ワークシート 【言語】①：ノート、ワークシート 【学びを引き出す】 ②毎時間、例示した中から選ぶなど課題を焦点化することで協議の話題を絞り、協働して解決に向かう学習になるようにする。 【学びを振り返る】 ③第一次での感想と、紹介カードにまとめた好きなところを比較することで、自分の変容に気付けるようにする。 ④好きなところを書き抜く部分と、好きな理由を書く部分とを分けた紹介カードにすることで、書き分けができるようにする。
三	7 8	5 紹介カードを基に交流し、本単元の学習とこれからの読書生活について振り返る。	【読む能力】①②：紹介カード 【学びを振り返る】 ③第一次での感想と、紹介カードにまとめた好きなところを比較することで、自分の変容に気付けるようにする。

5 本時の学習（6／8時間取扱い）

(1) 目標

好きなところを見つけ、場面の様子について想像したことを理由として、紹介カードにまとめることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。  学習目標(めあて)	○学習計画を見ながら、好きなところを紹介し合う活動について意欲を持たせる。 ○前時の学習をふり返り、本時の学習内容についての見通しを持たせるようにする。	学習計画表
展開 35分	4の場面の好きなところをさがして、紹介カードに書こう。		
	2 [課題]について話し合う。  [課題] 「△△が好き」と言っている子は、どうして好きなのだろう？  (1)教科書P115～を読み、本時の場面を確認する。 (2)課題について、ペアで話し合う。  (3)相談したことを発表する。  (4)好きな理由には、想像したことが基になって、「おもしろいから」「いいなと思うから」などの感想につながることを確認する。	○「△△が好き」な理由について、ペアで相談しながら場面の様子が想像できるようにする。 <b>【学びを引き出す】</b> ②好きな理由について協議できるよう課題を焦点化する。  <b>徹底指導</b> (ポイント) 好きな理由を書くための感想を表す言葉を示すことで、児童が理由を書くときに参考にできるようにする。 ○場面の内容を一枚の紙にまとめ、根拠を見つけやすくする。	拡大した例文
整理 5分	3 自分にとっての好きなところを見付け、理由も合わせて紹介カードにまとめる。  【言語活動】(設定の意図) ペアでの相談や全体で確認し合う活動を通して、場面の様子について想像したことを紹介カードにまとめられるようにする。	<b>能動型学習</b> (ポイント) 理由の書き方について確認しながら、紹介カードにまとめるようにする。  <b>評価：読む能力(紹介カード)</b> <b>B基準</b> 好きなところを書き抜き、場面の様子について想像したことを好きな理由として書いている。 <b>A基準</b> 好きな理由として登場人物の行動の変化に気付いたことを紹介カードに書いている。 (B基準に達していない児童への手立て) ○教師や友達に好きなところを説明することを通して、紹介カードに書けるようにする。	
	4 学習したことを振り返る。	○本時のめあてを確認し、振り返りを書かせる。 ○教師が本時の学習の様子について気づいたことを紹介し、児童が自身の変容を感じられるようにする。	振り返りカード

